

(別紙様式3)

令和2年3月30日

文部科学省初等中等教育局長 殿

研究開発完了報告書

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関名 福井県教育委員会
代表者名 豊北 欽一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記のとおり提出します。

記

1 事業の実施期間

2019年5月30日(契約締結日)～2022年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立鯖江高等学校
学校長名 福嶋 洋之
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

4 研究開発概要

本校は平成29年度から、鯖江市役所と協働し「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、「総合的な学習の時間」だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を実施してきた。この「鯖江市デジタルパンフレット」作成の取組みは、平成29年度に開始した。以降、右表の経過を経て、実践を

平成29年度	「鯖江市デジタルパンフレット」作成開始
	鯖江市長へのプレゼンテーション
平成30年度	「鯖江市デジタルパンフレット」作成継続
	パナソニック教育財団より助成支援
	福井国体体操競技場での市民・観光客向けプレゼンテーション

行ってきた。この実践を通し、総合的な学習の時間だけでなく、地域教材を活用した全教科・科目での授業開発を実施するという一定の成果をあげることができた一方で、市役所・NPO法人・同窓会など市民との連携強化、全校体制でのカリキュラム開発、本校の実践についての市民への普及等の課題もみられた。

こうした課題を解決するため、鯖江市役所や地域のNPO法人、企業組合、社会福祉協議会などの公益団体、本校同窓会など、地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきを強め、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築する。加えて「総合的な探究の時間」だけでなく、地域資源を活用した全教科でのカリキュラム開発・授業実践により一層磨きをかけ、全国へ発信する。

これらを踏まえ、本研究開発では、①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する、②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する、③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す、という3つの目標を設定した。さらに、育成を目指す地域人材として、①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化の継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民、という4つの地域人材像を設定した。このような地域人材を育成するため、①多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力、②他者に共感し協調して問題解決を図る力、③目標の達成に向けて計画を立て行動する力、という3つの具体的能力を育成するため、本研究開発を実施していく。

5 教育課程の特例の活用の有無
無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアムについて			1回		1回				1回			
カリキュラム開発等専門家について					1回				1回			
地域協働学習実施支援員について	1回	1回	1回									
運営指導委員会について								1回			1回	

(2) 実績の説明

- ・管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、および地域協働学習実施支援員の配置について

コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名（敬称略）
鯖江市役所	牧野 百男
福井経済同友会	江守 康昌・林 正博
金沢大学地域創造学類	佐川 哲也
福井大学教職大学院	松木 健一
福井県立大学	進士 五十八
鯖江市中学校長会	丸山 繁喜
福井新聞社	吉田 真士
NPO法人エルコミュニティ	竹部 美樹
鯖江高校同窓会	久保田 治裕
福井県教育委員会	豊北 欽一

- 6月13日（木） 本校・鯖江商工会議所・鯖江市役所相互連携協定締結
 8月28日（水） 相互連携協定第1回連絡協議会
 12月26日（木） 相互連携協定第2回連絡協議会

カリキュラム開発等専門家の配置

福井大学教職大学院准教授 木村 優 氏

- 8月 1日（木） 課題解決型モデル開発事業「課題解決型学習における「評価」に関する学習会」にて教員研修および指導・助言
 12月21日（土）・22日（日） I S N第5回研究会での他校を交えての意見交換および指導・助言

地域協働学習実施支援員の配置

NPO法人エルコミュニティ代表 竹部 美樹 氏

- 4月25日（木） 本事業採択決定を報告および今年度の活動計画について協議
 5月21日（火） 鯖江市地域活性化プランコンテストについて協議
 6月 7日（金） 公民科の授業における地域協働の方法について協議

運営指導委員会の構成員

No.	氏名（敬称略）	所属
1	佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
2	田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長
3	宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長
4	丸山 繁喜	鯖江市中学校長会長
5	齋藤 多久馬	福井県社会福祉協議会副会長

- 11月12日（火） 第1回運営指導委員会
 2月14日（金） 第2回運営指導委員会

- ・管理機関による主体的な取組みについて
 - ・継続的な取組みを行うための教員の人事面における加配計画
 - ・運営指導委員会の運営および指導・助言（添付資料①参照）

- ・高等学校と地域の協働による取組みに関する協定文書等の締結状況について
 - ・令和元年6月13日（木）に本校・鯖江商工会議所・鯖江市役所三者相互連携協定締結
- ・事業終了後の自走を見据えた取組みについて
 - ・地域人材の継続的な連携の支援および三者相互連携の強化

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくり							1回	3回	2回			
上記科目以外における地域人材の活用				2回	1回		1回	1回	2回	1回		
授業改善のための教員研修会									1回			

(2) 実績の説明

- ・研究開発の内容や地域課題研究の内容について
 - ① 1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくりについて

1年生の「総合的な探究の時間」においては、次年度から本格実施する探究活動に向け、探究活動の基礎スキルの習得および意欲向上を目指したカリキュラムを編成した。主に1学期はスキルの獲得、2学期から3学期にかけて、新聞記事づくりを行った。特に新聞記事づくりでは、コンソーシアムの一員である福井新聞社と連携し、生徒自身の興味関心に即したテーマで記事づくりを実施している。その際、そのテーマに関する課題を生徒が考察したことをもとに地域の方々へのインタビューを実施するなどの調査活動を行い、それぞれの課題を探究していくミニ課題研究に取り組んだ。
 - ② 上記科目以外における地域人材・資源の活用した授業展開について

1年生の「総合的な探究の時間」以外の教科について、数学、理科（地学基礎）、芸術科音楽、家庭科（子どもの発達と保育）など幅広い教科・科目で地域人材を活用した特別授業を実施した。その後、それらに関する地域資源を活用して、その後の授業や特別活動を展開した。詳細は添付資料③を参照。
 - ③ 授業改善のための教員研修について

「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を踏まえ、本校生徒の現状分析、今後の授業のあり方について、教員全体で意識することを目的に研修会を実施した。また、鯖江市の現状と将来に関するデータについても紹介し、本事業のねらいや目的について再確認した。
- ・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

「総合的な探究の時間」および全科目で地域との協働を実施することを目標としている。

- ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて
次年度の高校再編後の新学科，新コースの設置による学校設定科目等において，教科横断的な学習を検討中
- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの推進体制について
校務分掌として地域協働推進事務局の設置（本年度は2名）
- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）
地域協働推進委員会の設置および協議（年3回）
- ・カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー及び地域協働学習支援員の学校内における位置づけについて
カリキュラム開発等専門家 福井大学教職大学院准教授 木村 優 氏
雇用関係なし 適宜指導・助言を受ける
地域協働学習実施支援員 NPO法人エルコミュニティ代表 竹部 美樹 氏
雇用関係なし 適宜指導・助言を受ける
- ・学校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて
地域協働推進委員会，運営指導委員会などにおいて進捗状況を把握
地域協働推進事務局員との情報共有
- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて
本校・鯖江商工会議所・鯖江市役所相互連携協定の連絡協議会における指導・助言
- ・運営指導委員会等，取組みに対する指導・助言に関する専門家からの支援について
運営指導委員会を2回実施し，指導・助言を受ける（添付資料①・②）
- ・類型毎の趣旨に応じた取組みについて
「総合的な探究の時間」以外の授業における地域人材の活用（添付資料③）
クッキング部による地元野菜「吉川ナス」を使ったレシピづくり
3年生音楽選択者による民族楽器の演奏発表会
「北陸技術交流テクノフェア2019」への参加
- ・成果の普及方法・実績について
地域協働ニュース（第1号～第11号）の作成
広報誌（地域協働だより）の作成
マスコミによる取材（添付資料④）

8 目標の進捗状況，成果，評価

本事業の成果目標として、『「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を，生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い，卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする』と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケート結果から以下のような指標となった。

	アンケート項目	全校生徒の割合
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8%
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8%

協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7%
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1%
	共同作業だと自分の力が発揮できる	72.6%
行動力	目標を設定し、確実に行動することができる	65.1%
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2%
	自主的に調べものや取材を行う	60.4%
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2%

「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を分析すると、全国の本事業採択校と比較して、本校の生徒は上記以外の項目も含めて全体的に高い数値となった。本事業だけでなく、本校の教育活動の成果の表れである。しかし、社会参画意識に関する項目や地域資源・地域課題の解決に関する項目などでは、50%を下回っている。これらの項目は本事業の本質に関わる重要項目と捉え、相互連携協定を活かした地元企業との連携強化、地域に根差した探究活動の推進等が必要である。

9 次年度以降の課題および改善点

運営指導委員会、相互連携協定連絡協議会、カリキュラム開発等専門家などの指導・助言と今年度の取り組みをもとに、下記の①～③が次年度以降の課題および改善点である。

① 鯖江市の特色を活かしたカリキュラム開発

鯖江市には、漆器や眼鏡などの伝統産業だけでなく、鯖江市によるIT企業の誘致促進事業を受け、多くの特色ある企業が存在している。相互連携協定を活かし、これらの地元企業との連携をより一層促進していく。特に、次年度から、本校には「スポーツ・健康福祉コース」「IT・デザインコース」が新設される。これらのコースの特色を活かしたカリキュラム開発を進める。

② 生徒の探究活動の充実

今年度の1年生を対象とした「総合的な探究の時間」では、探究活動の基礎的なスキル獲得や探究活動に関する意欲向上のためのカリキュラムを実施した。次年度以降は、本格的な探究活動を実施していく。そこで、本県の課題解決型学習モデル開発事業実践校との情報交換、カリキュラム開発等専門家の木村優氏との連携を促進し、本校の探究活動の充実を図る。そして、合同発表会や地域への活動の参加を積極的に進め、探究活動を深めていく。また、探究課題の設定の際、ジェンダー平等や環境問題など、SDGsに即した課題設定の方法についての研究を進める。

③ 教員研修の充実

運営指導委員会においても指摘された通り、地元鯖江市のことを生徒に伝え、将来、地元鯖江市に戻ってくる生徒を育成するためには、本校の教員が鯖江市に対する理解を深めることが重要である。今年度も実施した授業改善の研修と合わせ、カリキュラム開発等専門家やコンソーシアムの方々の協力も得ながら、鯖江市について学ぶ教員研修会を実施する。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	TEL	0776-20-0568
氏名	高芝 和紀	FAX	0776-20-0669
職名	高校教育課 企画主査	e-mail	k-takashiba-3j@pref.fukui.lg.jp

(添付資料①) 【第1回運営指導委員会での助言】 (議事録より抜粋)

○佐川 哲也 氏 (金沢大学地域創造学類長) より

- ・地域の色々な分野から意見等を貰える仕組み作りが構築されていて素晴らしい。
- ・生徒が地域に貢献できることが増えていくことに大変期待している。
- ・学校としての成果は見えてくると思われるが、生徒一人一人にどのような形でプラスに繋がるかを考える必要がある。
- ・高校生が地域の中でどのような存在や役割を果たしているのか、生徒一人一人が考え、理解し、行動していけることが望ましい。
- ・学校の取組みの発信について、例えばユネスコスクール登録にチャレンジする等、取組み・目標を持続的に保てると良い。

○田中 謙次 氏 (福井経済同友会人づくり委員会副委員長) より

- ・生徒たちには地域企業は解り難い部分があると思われるが、その膨大な数の地域企業が福井の経済を支えている。福井の経済の基盤である地域企業や地域経営の掘り起こしをすることにより、地域魅力化を望むことができる。
- ・既存業種の磨き上げも大事だが、破壊的なイノベーションに到達するために、伝統産業等の福井に來なければ体験できないことを追求し、身近なことを知ることから始めることが大事である。
- ・先生方が翻訳家として地域を熟知することが重要である。

○宮本 昌彦 氏 (鯖江市産業環境部長) より

- ・今後も鯖江市出前講座などを役立てて貰いたい。
- ・日本人のみの交流や、日本国内だけでの活動では、自己肯定率の上昇は難しい。
- ・地域課題を取上げたとき、企業の問題や商店街の問題に目がいきがちであるが、LGBT等の人権的なことにも今後地域課題として目を向けるべきである。

○丸山 繁喜 氏 (鯖江市中学校長会長) より

- ・生徒たちが落ち着いて良い表情で授業に取り組んでいて大変良かった。
- ・部活動では、体操や駅伝、吹奏楽など、よく頑張っていて素晴らしい。
- ・中学校での取組みが高校での取組みに繋がる、中学校と高校の接続をより一層進めることで、魅力ある学校づくりを期待する。
- ・一旦県外に出てもまた故郷福井に戻って来ることを願っている。

○齋藤 多久馬 氏 (福井県社会福祉協議会副会長) より

- ・生徒たちの消極的な所が見受けられた。積極性を育て、ディスカッション思考を高めるべきである。
- ・鯖江市だけを地域と捉えるのか、福井県を地域と捉えるのかを考える必要がある。
- ・希望の大学に入ることも大切であるが、世界で飛躍できる実力ある人材が地元に戻って活躍することが大切である。その為には偏差値だけではなく、総合的な人格形成・世界に羽ばたく人材を育てることが極めて重要である。
- ・県内企業の求人情報や状況等をタイミングよく全国各大学等に発信し、人材確保の努力が必要である。
- ・指導力や研究能力には人間を育てる色々な側面があり、その総合的な力が地元を支え、日本を支え、世界を支えている。

○油谷 泉 氏 (福井県教育庁高校教育課長) より

- ・高校魅力化アンケートは初年度データとして大変重要である。今後さらに分析していく中で地域魅力化に生かしてほしい。
- ・数値の低いウィークポイントに目を向けると、いかに生徒を地域に出していくかということが重要である。

- ・地域の課題に取り組むときに、インターネットで調べて解決させるのではなく、実際のフィールドワークで地域の方の生きた話しを聞き、自分たちで考え挫折も味わうことでワンランクアップを狙うことができる。
- ・フィールドワークにより、色々な立場や視点の意見を聞き、高校生の視点でどのようにアプローチしていくかを熟考していく術を身につけてほしい。
- ・地域の人とのネットワークが日常的になれば、生徒の探究心も深まり研究が更に進むことが期待できる。
- ・学校自体が生徒の活動や変容を評価していくことが大切である。

(添付資料②) 【第2回運営指導委員会での助言】(議事録より抜粋)

○田中 謙次 氏(福井経済同友会人づくり委員会副委員長)より

- ・地域協働を来年度は全ての教科で絡めるとするのは非常に重要なポイント。
進学校も職業系の学校も、どこも授業時間が少ないため、表面的な部分を流すにとどまり、最終的な局面でありきたりな結論に陥りがち。全ての教科で関わりをもつことで、この問題が少し解消されるのではないかと期待する。
- ・高校に入って、いきなり地域について考える、いきなり自分の意見を伝える、というのは難しい。幼少期から地域の多様な方と触れ合い、多様な考え方を認める経験を重ねることで、小学生・中学生と自分の考え方のベースができ、地域でどんな問題があるのかを自然と意識する。そして、高校で具体的な形にするというのが、10年先を見据えた時に大切になる。
- ・田舎の高校だからこそできる尖った教育システムに挑戦することで、東京から引越してでも福井の教育を学ばせたい!と評価される学校となる。
- ・地域を知るということは、地域の問題を知るということ。常に当事者意識をもって、更に更に地域の問題を出していく必要がある。
- ・教員研修会は、教員内だけでなく、それぞれが色々な業界の研修会に参加する等して、そしてもち寄ったものを議論していくと、またより充実したものとなる。

○宮本 昌彦 氏(鯖江市産業環境部長)より

- ・活動をホームページにアップしたり、地域協働ニュース・広報誌を、保護者や市内中学に配るのは良いPRになる。
- ・福井銀行の数学特別授業のような、生徒が自分の将来に役立つと感じ、興味関心をもったことがらについての学びは身につく。学びたい欲求を引き出すことが大事であろう。
- ・生徒のフィールドワークに加え、先生方にも地域に出て行ってもらって、福井大学や商工会議所などさまざまな方に協力いただきながら、地域の色々な課題や課題解決を知ってってもらいたい。

○齋藤 多久馬 氏(福井県社会福祉協議会副会長)より

- ・福井県では、福井新聞が絶対的という側面があり、ものごとの多様性の理解に欠ける恐れがある。複数の新聞を並べてさまざまな意見を比べ、ものごとの多様性を理解した上で生徒が各々の意見をもつべき。
- ・批判精神を教えることは、教育の根幹。新聞一紙では誘導記事に騙されがちで、批判精神も生まれにくい。福井県では新聞を授業に取り入れることは難しい。
- ・発表をしたら相手の意見を求める姿勢をもつ、批判を浴びる覚悟をもつ。反論がなければ討論にならない。
- ・作文の起承転結は教えられても、論文形式が教えられていない。国語教育における今後の課

題であろう。

- ・地域だけを学んでも地域を理解することはできない。他地域を知ることで、地域が位置づけられる。

○山本 泰弘 氏（福井県教育庁高校教育課参事）より

- ・専門的なことを教わることができていてありがたい。市役所や商工会議所・企業の方に鯖江高校に入っていただき、生徒の刺激になっていて素晴らしい。次はどうやって地域に出ていくかが課題である。
- ・地域の課題に取り組むときに、ネットで調べたことを鵜呑みにして解決をしていては一面的な部分しか見えてこない。多面的な部分は実際地域に出ないと分からない。地域に出て、地域の課題を見付けるときに、生徒自身が興味関心をもつことが大切。先生が課題を与えるのではなく、生徒自身が好きなことに取り組みせる。地域の課題を自分の課題と捉えることで、本気になって取り組むことができる。
- ・実感して課題に取り組み、鯖江高校独自のものをつくりあげる。世界に繋がっているという意識をもって地域探究を行うことで、鯖江高校がより強みを持つことができる。

（添付資料③）【外部講師による活動】

○令和元年7月18日（木） 吉川ナスの収穫体験

鯖江高校のクッキング部の生徒が、鯖江市役所農林政策課のご協力をいただき、生産農家さんのビニールハウスで収穫体験を行った。収穫の方法だけでなく、品種改良されていない「吉川ナス」独特の栽培の難しさなど、多くのことを学んだ。

○令和元年7月31日（水） クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表

収穫体験でお世話になった生産農家の方々や、鯖江市役所の方々、そして本校卒業生である鯖江市内の洋食ビストロ「シトラス」の青柳彰彦氏を招き、試食会を実施した。青柳氏から調理の指導を受けながら調理し、完成した料理を、マスコミ関係者も含め、全員で試食をした。

○令和元年8月22日（木） 地学基礎 特別授業

2年文系の地学基礎を受講する生徒に、講師として株式会社「田中地質コンサルタント」代表取締役の田中謙次氏を招き、「鯖江の地質や地形から分かること」をテーマとして特別授業をしていただいた。この特別授業を受けて2学期の地学基礎の授業で、鯖江市が公開している「災害時サポートガイドブック」や他地域の防災ガイドなどを用いて、身近な防災に関する授業を展開し、防災に関する知識や防災に対する意識を深めていった。

○令和元年10月9日（水） 「子どもの発達と保育」の出前授業

3年文系の「子どもの発達と保育」を受講する生徒たちに、講師として鯖江市保育・幼児教育室の森友万貴氏を招き、保育の現状について」をテーマとして出前授業をしていただいた。この特別授業を受けて「子どもの発達と保育」の授業を通して、鯖江市の保育事情に関して、資料やインターネットなどを活用して調べ、デジタルパンフレットにまとめる活動を行った。

○令和元年10月30日（水） 1年生「総合的な探究の時間」特別授業

1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくりのため、福井新聞社の藪内弘昌氏を

招き、伝わりやすい文章の書き方やインタビューの方法などについて、講義していただいた。この特別授業を受けて、各自で新聞づくりをするために課題を考え、インタビューなどを通して探究し、記事にまとめて発表するミニ課題研究活動を展開していった。

○令和元年11月14日（木） 音楽 特別授業

民族楽器の収集家である森眞一郎氏を招き、3年生の音楽選択者を対象に特別授業を行った。カリンバ、カホン、アンフロン、アフリカン太鼓といった、東南アジアやアフリカの伝統的な民族楽器の紹介と演奏法を指導いただいた。その後も音楽の授業でそれぞれの楽器の練習を行い、12月8日に誠市でその成果を発表した。

○令和元年12月11日（水） 音楽鑑賞講座

地域で活動する音楽家3名の方に来校していただき、1年生2組、4組の生徒を対象に音楽鑑賞講座を行った。来校いただいた講師の方は、声楽家ソプラノの天勝まゆみ氏、フルート奏者の辻好氏、ピアノ奏者の嶋崎実紀氏の3名で、日ごろの活動を教えていただくとともに演奏を聴き、地域の芸術活動について理解を深める授業をしていただいた。

○令和元年12月8日（日） 誠市での民族音楽の発表

11月14日の特別授業からの流れで、鯖江市誠照寺で毎月1回開催されている蚤の市「誠市」において、3年生音楽選択の生徒が、特別授業で学んだ民族音楽の練習成果を地域の方々に発表した。

○令和2年1月28日（火） 数学 特別授業

2年生文系の数学の授業で、福井銀行より講師として米岡慎一郎氏を招き、ローンの金利の仕組みを等比数列・等差数列を使って解説する特別授業をしていただいた。この授業によりこれまで学んできた数学が身近なところで活用されていることを理解し、数学の授業の意義を感じ取ることができたようであった。

（別紙様式2添付資料④）【マスコミの取材状況】

○令和元年6月13日（木） 鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所の相互連携協定締結

- ・株式会社福井新聞社
- ・日刊県民福井
- ・福井テレビジョン放送株式会社
- ・福井放送株式会社（FBCテレビ）
- ・丹南ケーブルテレビ株式会社

○令和元年7月31日（水） クッキング部が地元野菜の吉川ナスを使ったレシピを発表

- ・丹南ケーブルテレビ株式会社

○令和元年10月30日（水） 福井新聞社による新聞記事特別講座

- ・株式会社福井新聞社

○令和元年12月8日（日） 誠市での民族音楽の発表

- ・丹南ケーブルテレビ株式会社

○令和2年1月28日（火） 数学 特別授業

- ・NHK福井放送局
- ・丹南ケーブルテレビ株式会社